

うたがき

筑波大学附属図書館 ボランティア広報紙

第 27 号 2018 年 3 月発行

活動の場から

その3 ～特殊資料整理～

筑波大学体育芸術図書館では全国の美術館や博物館などから送られてきたさまざまな展覧会のポスターを館内に展示した後、ポスターのタイトル・会場・会期・掲載図版などのデータをとって保存しています。データは「展覧会ポスターデータベース」として、現在9262枚のポスターデータが附属図書館のHPから公開されています。

この「特殊資料整理」は平成11年からボランティアの活動の一つに加えられました。年間800枚ほど送られてくるポスターは、まず会期と会場により、掲示するものとそのまま収納するものに分類し、掲示するものは「Eureka ユーリカ！」の展示スペースに掲示します。

ポスターの整理・データ入力は大変な作業ではありますが、様々な美術作品の美しいポスターを見たり、これまで知らなかったようなジャンルの美術を知ったり、また、それと関連して体芸図書館に所蔵されている9700冊以上の展覧会目録を見たり、と驚きと喜びをもって毎回楽しく活動しています。

CONTENTS

- ① 活動の場から
- ② フィールドワーク 2017.10月～
- ③ 主な活動

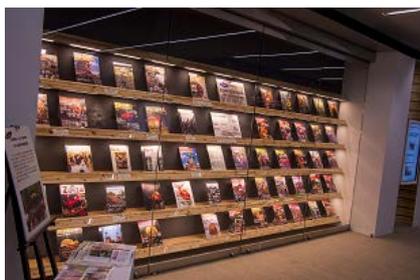


フィールドワーク

2017年度 10月～3月

* 東京都立多摩図書館見学 * (10月12日)

毎年行っている自主学外研修として、今年は都立多摩図書館を見学した。都立図書館としては広尾にも中央図書館があるが、多摩は雑誌の特性を活かしたサービスを行う「東京マガジンバンク」と子供の読書活動を推進する「児童・青少年資料サービス」の2つの機能を特長とした図書館である。特に各雑誌の創刊号を揃えた「創刊号コレクション」は圧巻だったし、子供の読書推進活動では、子供自身が楽しめる本を揃えたばかりでなく、推進活動するうえで役立つ資料も取り揃え、相談にも応じているところが特徴的だった。



* 大庭一郎先生の講演を拝聴して * (11月7日)

「図書館情報学の対象世界『二十四の瞳』(壺井栄著)を題材として」という演題で、筑波大学図書館情報メディア系の大庭一郎先生からお話をいただいた。先生はボランティア専門委員会の委員として我々を支援してくださっている方でもある。

図書館は人間の知的生産物である記録された知識や情報を収集、組織、保存し、人々の要求に応じて提供することを目的とする社会的機関である。公共図書館、学校図書館、大学図書館、専門図書館、国立図書館などが存在する。資本主義国と社会主義国では資料の集め方が違うということだ。我が国は図書館法に守られて公平な選書が行われている。

図書館を支える学問として図書館学、さらにコンピューターの発達に伴って電子的媒体情報が増えてきて、それらの生産、利用、および管理に関する研究が情報学である。図書館学に情報学が付け加わった研究領域として図書館情報学が存在する。2002年に図書館情報

大学が筑波大学に統合されて、図書館情報専門学群が設置される。社会における知識の共有を保持するという社会的価値を追求する総合的領域である。

先生は壺井栄の『二十四の瞳』を研究対象として収集しておられるとのこと。調査内容は出版年、出版形態、読者対象、ポイント、解説、著者紹介、注、表紙絵、挿絵である。著者紹介で、壺井栄の生年が1899年(7点)、1900年(13点)、1904年(2点)、その他(1点)とあるが、1899年が正しいということである。1952年から現在までに刊行されたその図書94点のうち、大庭一郎研究室と筑波大学の図書館情報学図書館で78点を所蔵している。

先生は表紙の違う『二十四の瞳』を地方の古本屋で見つける喜びを語られ、将来は収集したものを大学図書館に寄贈したいとのことであった。



* 千葉大学附属図書館本館

アカデミック・リンク・センター見学*

(11月15日)

千葉大学アカデミック・リンク・センターを見学した。まったく図書館らしくない図書館、というのが第一印象。

建物は、それぞれ特徴のあるコンセプトを持った、4棟—L棟(Learning: 黙考する図書館)、I棟(Investigation: 研究・発信する図書館)、N棟(Networking: 対話する図書館)、K棟(Knowledge: 知識が眠る図書館)—に分かれている。

室内は、本を読むというより、学生同士が意見交換しやすい環境になっている。

見学を終えて、この施設は、単に学位取得や卒論作成のための場所ではなく、生涯学び続ける糸口を見つけるための場所という役割を担っていると感じた。





折り紙講習会に参加して (12月6日)

第2回折り紙講習会がチャットフレームにて開催された。当日の参加者はロシア協定大学の教員・学生14名、本学学生他17名、ボランティア8名だった。

今回のテーマはリース。折り方も組み方も簡単なので、参加者が多数にもかかわらず和気あいあいと進行できた。8枚のパーツをつなげてリースを作り、今年の干支の犬・椿・富士山を折って、いずれか一つをリースにつけるといったものだ。ライブラリアンを目指しているというデンマーク

の学生は、犬も椿も富士山も全部リースにつけてご満悦。また、3月にオーストラリア語学留学を予定しているという学生は、そのために折り紙を習得したいと大変意欲的だった。



めに、近年は日本文化を通して筑波大学留学生を交え、更にグローバルなコミュニケーションを体験出来る行事として、毎年この時期に行われている。

参加者は、ボランティア12名、留学生2名。「百人一首」や「魚魚合わせ」、ご当地「伊万里」かるたや水習字を楽しんだ後は、お抹茶とお菓子でひとやすみ。ありがたくも差し入れて、この時期限定の和菓子「花びら餅」に、信州銘菓の「みすず飴」を頂いて。「籤入クッキー」は、大吉から小吉までの開運籤が入っていて、大吉なのに辛口な文だったり、小吉だけど優しい文面だったりで大いに盛り上がり、交流の円が繋がり盛況のうちにお開きとなった。



新年かるた会 (1月26日)

快晴の空の下、大学会館4階和室で、平成29年度の「新年かるた会」が開催された。

当初はボランティアメンバー同士の学びと交流のため

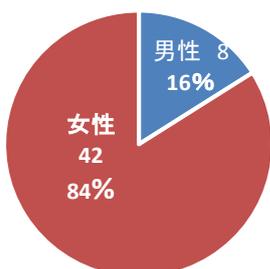
ボランティアの登録状況

平成29年度登録者： 50名

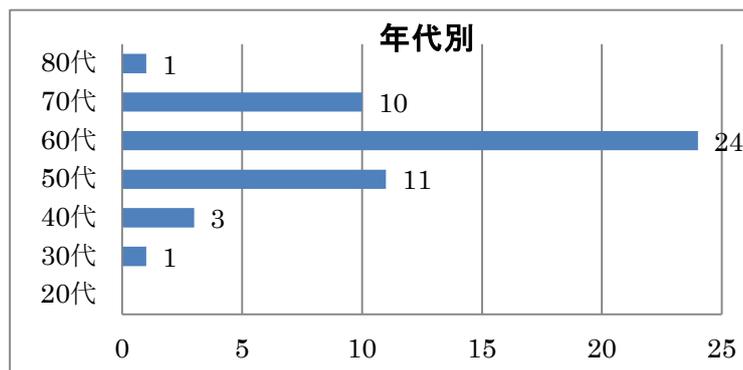
どんな方たちが？

平均年齢 63才 女性が約8割

男女別



年代別



主な活動・・・こんなことをしています

ボランティアは中央図書館と体育・芸術図書館で活動しています。活動時間は毎週月曜日から金曜日の10時から16時(午前のシフトは10:00～13:00、午後のシフトは13:00～16:00)です。現在、つくば市及びその近郊の市民、約50名が活動しています。



総合案内

図書館利用者すべてに対する、館内の資料配置の案内やパソコンによる資料検索の手伝い。館内巡回。



利用環境整備(シェルフリーディング)

中央図書館及び体育・芸術図書館の書架の整理や、不明図書の探索、図書ラベルの補修。



美術展ポスター整理(体育・芸術図書館にて)

全国の美術館・博物館から送られてくる展覧会ポスターの掲示とデータベース化。



図書修理

専門的な製本技術を使った図書の修理。



見学案内

新入生、留学生、中高生、一般、海外からの見学者に図書館を案内する。



対面朗読

視覚障害者のための対面朗読。館内での資料探索の支援。



日本文化紹介

月1回の勉強会と、年3～4回の主に留学生を対象とした折り紙講習会。新年かるた会。



広報

広報誌「うたがき」、「図・ボラの会」会報の発行。



☆うたがきのあとがき

新生うたがき第3号をお届けします。半年間の活動の記録です。見学で訪れるあちこちの図書館に、静謐が当然であった従来の図書館だけでなく、ラーニングコモンズのような知的コミュニケーションの場を提供する空間が設置された新たな図書館の姿が見られます。過去にさかのぼる知の系譜と未来へと拡がっていく知の進展を同時に体感する貴重な経験となりました。

編集:筑波大学附属図書館ボランティア広報部
発行:筑波大学附属図書館
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
TEL 029-853-2348 (アカデミックサポート課)

開かれた大学図書館として広く学外の利用者の方々に開放しています。
詳しくは、<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp> をご覧ください。

* 筑波は、遙か昔に歌垣の習俗があった地。色々な人の声を聞き応え合うことで繋がり、発展を生み出すことを望み、広報紙「うたがき」としました。